

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	川窪 吉男（29）	<p>1. 肺がん検診の受診率向上への取組について</p> <p>今や、高齢社会の中で、様々な病気で亡くなる人が年々増加傾向にあります。全国では2021年の死亡者数は143万9856人で、2020年の137万2755人から6万7101人の増加となっています。また、2021年のデータによると、日本人の死因は、悪性新生物（がん）、心疾患、老衰が上位3位で、52.0%でした。本市におきましても、2020年の三大死因は全国と同じであり、その割合は、53.7%と全国同様の状況となっています。</p> <p>死因トップのがんについて部位別に見ますと、1997年以前では胃がんがトップでしたが、1998年以降は肺がんがトップになりました。全国的に見ても、肺がんの患者数は年々増加し、2019年の統計では、全国で12万6548人が肺がんと診断され、2020年には7万5585人が肺がんにより死亡している状況でした。特に、肺がんは男性の部位別死亡率でもトップになっており、肺がんの2人に1人が喫煙者だと言われています。本市を見ますと、全死亡者数は、2010年には2277人でしたが、2020年には2676人と、10年間で399人増加しています。2020年の死因別では、がんが758人と28.3%を占めている中で、その17.4%が「気管、気管支及び肺がん」と最も多く、毎年130人前後が亡くなっている状況です。</p> <p>本市の肺がん検診の受診状況を見ますと、2018年の対象者10万5316人に対し、受診者数は7918人であり、受診率は7.5%でありましたが、2019年は7.0%、2020年から2022年まではコロナ禍の影響もあったかもしれませんが、それぞれ、4.3%、3.5%、3.2%と年々低くなっています。一方で、静岡県を受診率を見ますと、2018年は9.3%、2019年は8.9%、2020年は7.5%であり、この比較を見ましても本市の受診率の低さは明らかとなっています。</p> <p>そこで肺がんによる死亡を一人でも減らす取組について、以下お伺いいたします。</p> <p>(1) 本市の肺がんを含め、がんの疾病の状況について、どのように捉えているか伺います。</p> <p>(2) これまでの肺がん検診について、どのように取り組んできたか伺います。</p> <p>(3) 今後、肺がん検診の受診率を上げるため、どのような施策を考えているのか伺います。</p>	市長 及び 担当部長